



平成30年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月2日

上場会社名 株式会社ジョイフル本田 上場取引所 東
 コード番号 3191 URL <http://www.joyfulhonda.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 矢口 幸夫
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 吉原 悟郎 (TEL) 029(822)2215
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月2日 配当支払開始予定日 平成30年3月8日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第2四半期の連結業績(平成29年6月21日～平成29年12月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第2四半期	74,695	△3.2	4,163	17.8	4,456	6.0	2,788	0.9
29年6月期第2四半期	77,144	△3.5	3,534	△16.3	4,204	△14.4	2,762	△14.0

(注) 包括利益 30年6月期第2四半期 2,834百万円(△11.6%) 29年6月期第2四半期 3,205百万円(1.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第2四半期	73.05	—
29年6月期第2四半期	53.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第2四半期	156,700	101,738	64.9
29年6月期	199,413	157,536	79.0

(参考) 自己資本 30年6月期第2四半期 101,738百万円 29年6月期 157,536百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	32.00	32.00
30年6月期	—	24.00	—	—	—
30年6月期(予想)	—	—	—	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年6月期の連結業績予想(平成29年6月21日～平成30年6月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	153,800	△0.7	7,970	7.8	8,540	6.5	5,590	△8.8
								153.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年6月期2Q	51,612,880株	29年6月期	51,612,880株
② 期末自己株式数	30年6月期2Q	17,000,140株	29年6月期	700,740株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年6月期2Q	38,175,168株	29年6月期2Q	51,248,692株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態の分析	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府による経済政策や金融政策を背景に緩やかな回復基調が見られましたが、米国や欧州の政治情勢の不安定さや地政学的な不安の高まりなど、不確実性が増し、先行きについては不透明な状況が続いております。一方、雇用環境は引き続き改善傾向にあるものの、個人消費は低迷が続いており、経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

ホームセンター業界におきましても、業種、業態の垣根を越えた激しい販売競争にさらされ、苦戦が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、今後の経営環境として少子高齢化社会における顧客のライフスタイルの変化や、小売業界で進む事業再編の時流を再認識し、当連結会計年度からムリ・ムダ・ムラを排除し生産性やコスト競争力を向上させ、更なる顧客価値創出に向けたリソースを確保するため、「変革元年」を基本テーマに「事業構造」・「マーチャндаイジング構造」・「組織構造」・「経費構造」の4つの分野の構造改革に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間の主な取組内容と成果としましては、

- ①「事業構造改革」では、成長分野であるリフォーム事業について、当社ホームセンター事業のエクステリア部門と連結子会社である株式会社スマイル本田を統合し、2017年6月21日より新たに株式会社ジョイフル本田リフォームとしてリフォーム事業を一体化した事業運営を開始しました。また、出店について、ホームセンター千葉店を当社の中型店プロトタイプとしてリニューアルオープンするための建て替え工事を2017年5月より開始しました。2017年11月にはアンティークと服飾雑貨の専門業態である「THE GLOBE」を、当社としては初めて大型商業施設（イオンモールつくば）内に開店しました。また、設備の安全性、快適性の改善に加え、地域住民の健康維持やコミュニティの更なる醸成に寄与し、災害時の緊急避難拠点としても機能拡大を図るべく、当社のスポーツ事業であるジョイフルアスレティッククラブ土浦の建て替えを決定しました。新規出店や改築を進める一方、財務戦略の一環として、茨城県内を始め各所に所有している遊休資産（不動産、社員寮、設備等）について、その整理、処分を進めております。
- ②「マーチャндаイジング構造改革」では、取引先の見直し、品揃えや価格政策、販売構成の見直し等、売場改革を推進しております。
- ③「組織構造改革」では、「エリア価値最大化」を図るため、事業部制を廃止し、エリアを統括する責任者を配置する等、本社と店舗が一体となった新しいエリアマネジメントを推進しております。また、本社組織においては、商品部を3つに分け、各商品分野別の管理レベルの向上と専門性の追求を図っております。
- ④「経費構造改革」として、グループ共通機能の集中化・標準化の検討を開始しました。

また、当社グループを支える人財の活躍促進と企業風土改革を図るため、2017年8月より社内人材教育大学「ジョイフル本田カレッジ」を開始しており、2018年1月からは第2期が開講されました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期に比べ24億48百万円減少し、746億95百万円（同比3.2%減）となりました。また、営業利益は前年同四半期に比べ6億29百万円増加し、41億63百万円（同比17.8%増）、経常利益は前年同四半期に比べ2億52百万円増加し、44億56百万円（同比6.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期に比べ25百万円増加し、27億88百万円（同比0.9%増）となりました。

なお、当社グループの当第2四半期連結累計期間のセグメント別業績は、以下のとおりとなっております。

ホームセンター事業

ホームセンター事業は、全体としては長雨や台風等の天候不順の影響、また、2017年5月16日から行っている千葉店の仮設営業による大幅な売場縮小や千代田店におけるJOYFUL-2閉鎖とテナントゾーン再編の影響等から、前年同四半期に比べ売上高が減少しました。部門別では、前述のとおり異業種との激しい競争にさらされ一部のインバウンド需要も落ち着いた生活雑貨部門や、当四半期後半の台風の影響で客数が減少したガーデン部門、アグリライフ部門、住宅インテリア部門等、季節性の高い商品群を抱える部門が苦戦しました。また、住宅資材・DIY部門では、台風後の補修需要により当四半期後半からは回復傾向に転じたものの、天候不順等の影響を補うまでには至らず前年同四半期に比べ売上高が減少しました。このほか、ハイブリッド車などの低燃費車の普及や価格競争が激化したガソリン・灯油部門、前述のとおり1店舗を閉鎖したアート・クラフト部門も売上高が減少しまし

た。一方で、差別性の高いペット部門は、猫用品を中心に好調を維持し、売上高を伸ばしました。

結果として、ホームセンター事業全体の売上高は、前年同四半期に比べ24億45百万円減少し、738億11百万円（同比3.2%減）となりました。

なお、仮設店舗にて営業中の千葉店と閉鎖したJOYFULー2千代田店の影響を除くと、売上高は前年同四半期に比べ12億9百万円減少し、732億64百万円（同比1.6%減）となっております。

セグメント別の業績を部門別に示すと、次のとおりであります。

（主要商品部門別の状況）

①「住まい」に関する分野

（a）住宅資材・DIY

販売促進効果もあり、作業服や防寒着、内外装建材が好調に推移しましたが、台風の影響から屋根材以外の材木や塗料関係の資材は伸び悩みました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ1億30百万円減少し、99億70百万円（同比1.3%減）となりました。

（b）住宅インテリア

神棚や仏壇などの収納カテゴリーの販売は好調だったものの、カーテン、敷物や照明器具等の落ち込みの影響が大きく、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ1億28百万円減少し、42億99百万円（同比2.9%減）となりました。

（c）ガーデンライフ

2017年10月28日に、ガーデンセンター新田店内に4店舗目を開設した農産物直売事業は、全体として好調に推移しましたが、野菜苗やハーブ等の屋外向け植物を中心に肥料用土類、ガーデニング用資材等の販売が、台風等の天候の影響により伸び悩みました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ2億74百万円減少し、33億62百万円（同比7.5%減）となりました。

（d）アグリライフ

前年同期比で客数が増加した散水用品や薬品類、除草剤等が好調に推移しましたが、台風等の天候の影響で家庭菜園用品や土農工具、機械類の販売が落ち込みました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ78百万円減少し、40億61百万円（同比1.9%減）となりました。

（e）リフォーム

当期より、株式会社ジョイフル本田で運営していたエクステリア事業と連結子会社である株式会社スマイル本田で運営していた内装リフォーム事業を統合し、新たに、株式会社ジョイフル本田リフォームとして事業運営を開始しております。事業統合後の大規模な販売促進効果と当四半期末頃の天候回復により、外構工事を中心に売上高が回復しましたが、それまでの落ち込みを埋めるまでには至らず、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ32百万円減少し、86億50百万円（同比0.4%減）となりました。

なお、前年同四半期との比較において、前年同四半期の（d）アグリライフ部門に含まれていた千葉店のガーデンにかかる売上高40百万円については、前年同四半期の（d）アグリライフ部門の売上高から除いております。この売上高40百万円と主要商品部門ではないため開示していなかった新田店のポタニックガーデンにかかる前年同四半期の売上高2百万円については、（c）ガーデンライフ部門の前年同四半期の売上高としております。また、前年同四半期の（e）エクステリア部門の売上高26億58百万円については、事業統合に伴い、（f）リフォーム部門の前年同四半期の売上高としております。

②「生活」に関する分野

(a) 生活雑貨

2017年6月の酒税法改正の影響により、ビール類の販売は落ち込んだものの焼酎やウィスキー類を中心に売上高が拡大した酒類や、サプリメントの販売が伸びたドラッグなどが好調でしたが、前期に一部商品において発生したインバウンド特需の反動があった生活用品全般が伸び悩みました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ13億51百万円減少し269億45百万円（同比4.8%減）となりました。

(b) ガソリン・灯油

灯油の販売は大きく伸びましたが、ガソリンは低燃費車の普及や価格競争の激しさから販売量が伸び悩み、売上高が落ち込みました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ2億10百万円減少し、60億29百万円（同比3.4%減）となりました。

(c) ペット

犬猫の生体販売は伸び悩みましたが、猫用のフードや小物用品、小動物用品等が好調に推移しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ1億91百万円増加し、46億65百万円（同比4.3%増）となりました。

(d) アート・クラフト、ホームセンター周辺部門

2017年11月に、大型商業施設（イオンモールつくば）内にアンティークと服飾雑貨の専門店として、「THE GLOBE」を開業し好調に推移しています。既存店では、クリスマス用品の販売は伸びましたが、ステーションリーやアート商品等が伸び悩みました。千代田店のテナントゾーン再編により、JOYFUL-2千代田店を2017年2月に閉店した影響もあり、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ4億61百万円減少し、47億31百万円（同比8.9%減）となりました。

(e) 車検・整備、タイヤ部門

当四半期後半においては、季節商品である冬タイヤの販売や車検台数が好調に推移しました。結果として、売上高は、前年同四半期に比べ38百万円増加し、6億80百万円（同比5.9%増）となりました。

なお、前年同四半期との比較において、前年同四半期の（a）生活雑貨部門に含まれていた千葉店のペットにかかる売上高51百万円については、前年同四半期の（a）生活雑貨部門の売上高から除いております。この売上高51百万円は、（c）ペット部門の前年同四半期の売上高としております。

その他の事業

その他の事業では、スポーツクラブの運営等を行っております。健康志向の高まりから会員の施設利用は拡大しましたが、一部地域において競合の影響により会員数が減少し、結果として、売上高は、前年同四半期に比べ3百万円減少し、8億84百万円（同比0.4%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

①資産、負債及び純資産の状況

資産は、前連結会計年度末に比べ427億13百万円減少し、1,567億00百万円となりました。これは主として、現金及び預金の減少454億17百万円、売掛金の増加6億87百万円、たな卸資産の増加22億25百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ130億83百万円増加し、549億61百万円となりました。これは主として、買掛金の増加43億46百万円、短期借入金の増加100億円、長期借入金の減少8億31百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ557億97百万円減少し、1,017億38百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益27億88百万円の計上および配当金の支払い16億32百万円、自己株式の取得570億1百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ366億7百万円減少し201億41百万円(同比64.5%減)となりました。各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、59億86百万円(前年同期比15.0%増)の収入となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益38億71百万円、減価償却費15億63百万円、たな卸資産の増加額22億25百万円、仕入債務の増加額43億46百万円、法人税等の支払額11億60百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、70億63百万円の収入(前年同期は23億96百万円の支出)となりました。これは主に定期預金の払戻による収入110億円、定期預金の預入れによる支出30億円、投資有価証券の償還による収入35億円、投資有価証券の売却による収入12億92百万円、投資有価証券の取得による支出52億0百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、496億57百万円の支出(前年同期は37億64百万円の支出)となりました。これは主に短期借入金の借入れによる収入360億円、短期借入金の返済による支出260億円、自己株式の取得による支出570億1百万円、配当金の支払額16億32百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年8月4日の「平成29年6月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年6月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	69,283	23,865
売掛金	2,580	3,268
たな卸資産	16,377	18,602
その他	2,035	2,368
貸倒引当金	△1	△2
流動資産合計	90,276	48,103
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	76,222	75,865
機械装置及び運搬具	1,623	1,647
土地	61,129	61,114
その他	6,162	7,456
減価償却累計額	△50,680	△51,524
有形固定資産合計	94,457	94,559
無形固定資産		
無形固定資産	1,850	1,792
投資その他の資産		
投資有価証券	6,994	7,486
関係会社株式	1,035	1,096
繰延税金資産	1,867	2,101
その他	2,935	1,558
貸倒引当金	△3	—
投資その他の資産合計	12,829	12,243
固定資産合計	109,137	108,596
資産合計	199,413	156,700

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年6月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,974	12,320
短期借入金	40	10,040
1年内返済予定の長期借入金	1,662	1,662
未払法人税等	1,298	1,351
賞与引当金	231	230
役員賞与引当金	31	17
役員退職慰労引当金	90	—
その他	7,246	6,720
流動負債合計	18,574	32,342
固定負債		
長期借入金	14,105	13,273
退職給付に係る負債	2,525	2,592
資産除去債務	1,869	1,878
長期預り保証金	4,225	4,363
株式給付引当金	—	22
その他	577	487
固定負債合計	23,302	22,618
負債合計	41,877	54,961
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,000	12,000
資本剰余金	12,503	12,503
利益剰余金	133,657	134,814
自己株式	△1,795	△58,794
株主資本合計	156,366	100,522
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,119	1,190
退職給付に係る調整累計額	50	25
その他の包括利益累計額合計	1,170	1,216
純資産合計	157,536	101,738
負債純資産合計	199,413	156,700

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年6月21日 至平成28年12月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年6月21日 至平成29年12月20日)
売上高	77,144	74,695
売上原価	56,974	54,561
売上総利益	20,169	20,134
営業収入		
不動産賃貸収入	1,919	2,015
サービス料等収入	351	348
保険代理店手数料	24	28
営業収入合計	2,295	2,392
営業総利益	22,465	22,527
販売費及び一般管理費	18,931	18,363
営業利益	3,534	4,163
営業外収益		
受取利息	7	34
受取配当金	29	26
持分法による投資利益	66	60
技術指導料	98	29
受取手数料	188	200
その他	286	228
営業外収益合計	676	580
営業外費用		
支払利息	1	23
支払手数料	0	262
その他	5	1
営業外費用合計	7	287
経常利益	4,204	4,456
特別利益		
投資有価証券売却益	—	3
固定資産売却益	0	66
受取補償金	—	0
特別利益合計	0	69
特別損失		
固定資産除却損	132	126
減損損失	—	507
投資有価証券売却損	—	19
その他	0	1
特別損失合計	133	654
税金等調整前四半期純利益	4,071	3,871
法人税、住民税及び事業税	1,394	1,294
法人税等調整額	△86	△212
法人税等合計	1,308	1,082
四半期純利益	2,762	2,788
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,762	2,788

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年6月21日 至平成28年12月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年6月21日 至平成29年12月20日)
四半期純利益	2,762	2,788
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	358	71
退職給付に係る調整額	84	△25
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	442	46
四半期包括利益	3,205	2,834
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,205	2,834

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年6月21日 至平成28年12月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年6月21日 至平成29年12月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,071	3,871
減価償却費	1,800	1,563
のれん償却額	2	2
減損損失	—	507
持分法による投資損益(△は益)	△66	△60
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△2
賞与引当金の増減額(△は減少)	△44	△1
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△12	△14
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	—	△90
株式給付引当金の増減額(△は減少)	—	24
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	150	30
受取利息及び受取配当金	△37	△61
支払利息	1	23
投資有価証券売却損益(△は益)	—	16
固定資産除却損	132	126
固定資産売却損益(△は益)	△0	△66
売上債権の増減額(△は増加)	△566	△687
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,385	△2,225
仕入債務の増減額(△は減少)	4,028	4,346
未払消費税等の増減額(△は減少)	△371	△86
その他	184	△109
小計	6,885	7,107
利息及び配当金の受取額	34	62
利息の支払額	△1	△23
法人税等の支払額	△1,714	△1,160
その他	—	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,203	5,986
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△21,500	△3,000
定期預金の払戻による収入	21,500	11,000
有形固定資産の取得による支出	△1,070	△1,828
無形固定資産の取得による支出	△117	△89
有形固定資産の除却による支出	△92	△111
投資有価証券の取得による支出	△1,000	△5,200
投資有価証券の売却による収入	—	1,292
投資有価証券の償還による収入	—	3,500
差入保証金の回収による収入	7	1,387
その他	△123	113
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,396	7,063
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	30	36,000
短期借入金の返済による支出	△120	△26,000
長期借入金の返済による支出	△89	△831
自己株式の取得による支出	△1,795	△57,001
リース債務の返済による支出	△189	△192
配当金の支払額	△1,599	△1,632
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,764	△49,657
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△957	△36,607
現金及び現金同等物の期首残高	40,088	56,748
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,131	20,141

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

自己株式の取得および処分

当社は、平成29年6月8日開催の取締役会決議に基づき、平成29年7月31日をもって自己株式16,300,000株を57,001百万円で取得しました。また、平成29年9月15日開催の取締役会決議により、退任が決議された執行役員に対して、株式給付信託制度に基づき、株式給付信託(BBT)から自己株式600株を給付し1百万円減少しました。これらの影響により、当第2四半期連結会計期間末における自己株式等は17,000,140株、58,794百万円となりました。

(セグメント情報等)

1 前第2四半期連結累計期間(自平成28年6月21日 至 平成28年12月20日)

①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	ホームセンター事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	76,256	76,256	887	77,144
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	10	0	11
計	76,266	76,266	888	77,155
セグメント利益	3,289	3,289	244	3,533

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツクラブ事業を含んでおりません。

②報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,289
「その他」の区分の利益	244
セグメント間取引消去	1
四半期連結損益計算書の営業利益	3,534

③報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

2 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年6月21日 至 平成29年12月20日)

①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	ホームセンター事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	73,811	73,811	884	74,695
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5	5	0	6
計	73,816	73,816	885	74,702
セグメント利益	3,910	3,910	252	4,162

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツクラブ事業を含んでおりません。

②報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,910
「その他」の区分の利益	252
セグメント間取引消去	1
四半期連結損益計算書の営業利益	4,163

③報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他	合計
	ホームセンター事業	計		
減損損失	143	143	363	507